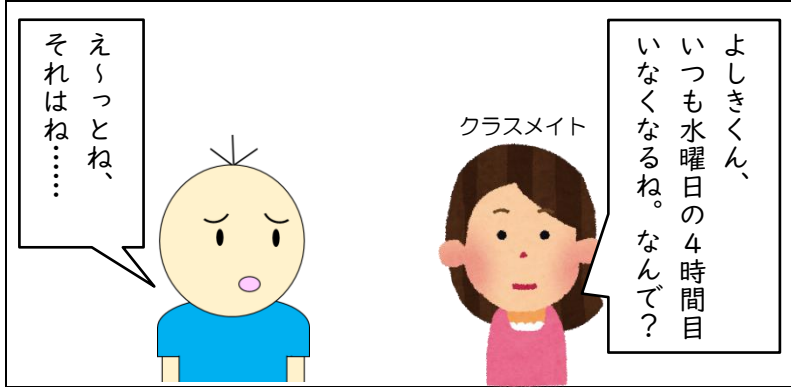
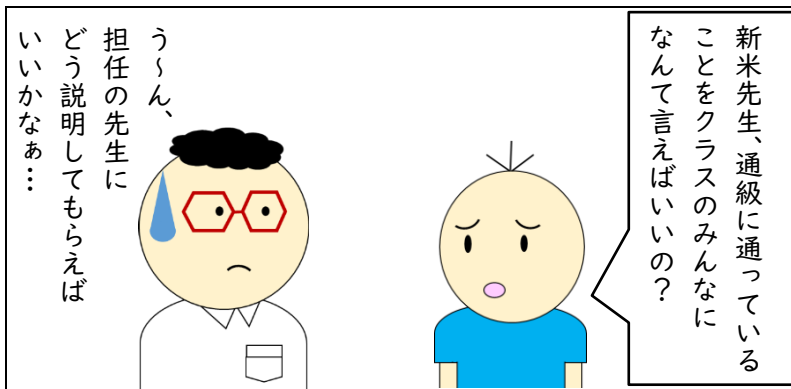


Q3 | 通級指導教室のこと、周りの子供たちにどうやって説明すればよいのですか？

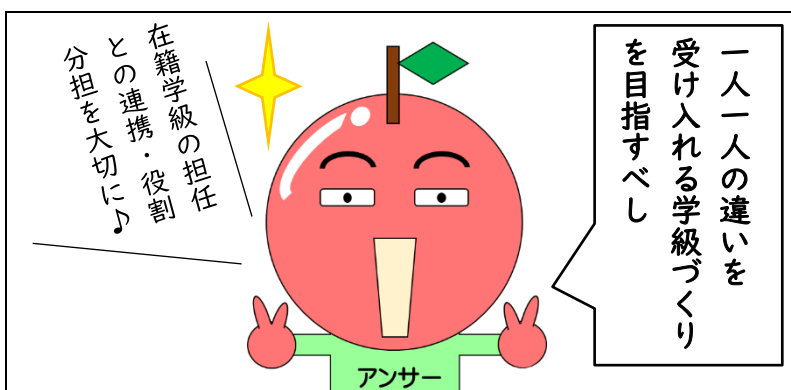
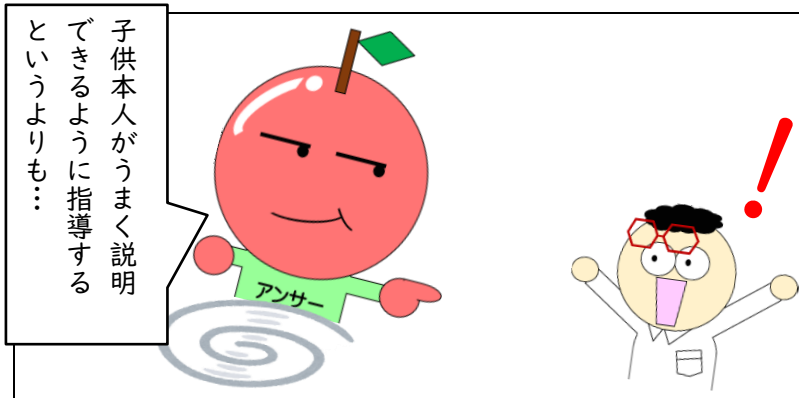
※新米先生は通級指導教室を担当している



在籍学級にて



通級指導教室にて



一人一人の違いを受け入れる学級づくりを目指す

- **通級指導教室で指導を受けることへの抵抗感が軽減するような環境をつくりましょう。**

通級指導教室に通っている子供は、通常の学級に在籍しており、ほとんどの時間をそこで過ごし、週のある時間だけ通級指導教室に通い、指導を受けます。そこで、通級指導教室に通うために、在籍学級を抜けることに抵抗感を感じないように、学級全体で応援するような雰囲気づくりが大切です。それには、学級担任の日頃の学級経営が大きく影響します。普段から、一人一人の違いを受け入れる学級づくりが重要です。

通級担当者は、通級指導を受けている子供の行動の見方や対応の仕方等を学級担任に伝えていくことで、一人一人の違いを認め合い、相手を尊重する集団づくりのための一助となります。

周囲の理解を促す

- **本人・保護者の意向を確認した上で、学年や学級の実態に応じた伝え方を考えるようにしましょう。**

通級による指導を受けていることをどのように周囲に伝えていくか、子供が置かれている状況（発達段階や困難の状態含む）に応じて検討していくことが大切です。その上で、在籍学級の子供たちにどのように伝えていくのか、本人や保護者の意向（気持ち）を聞き、伝える内容や伝え方を検討していきます。

内 容

- 通級指導を受ける目的や具体的な内容
- 障害の特性
- 本人や保護者の願い

伝え方

- 担任が説明
- 通級指導担当教員が説明
- 本人が自分で説明
- 保護者が在籍学級において説明
- 保護者会の場で説明（担任、通級指導教室担当教員、保護者等）

【文献】調布市特別支援教育研究部会・山中ともえ 編著（2019）：特別支援教育サポート BOOKS「通級担当1年目からの疑問に答えるQ&A」, 明治図書出版。

よく一緒に読まれているQ

- Q8 「[交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？](#)」
- Q32 「[通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか？](#)」

[目次に戻る](#)